

■林(源十郎)伴臣
はやしともおみ
国定忠治磔・1850＝
兄の死で、その子の成長の間、薬種商林家8代当主となって、窮地を救い、倉敷の発展に貢献した。

ペリー来航・1853＝ 3歳：
開国開港・・・1854＝ 4歳：弟醇平が誕生。

安政の大獄・1859＝ 9歳：
桜田門外変・1860＝10歳：この年、父が(源助)懷徳に譲って隠居。

生麦事件・・・1862＝12歳：筑前の宗像大社に参詣した国学者鈴木篤胤が倉敷に滞在した際、父に従って入門、才を見込まれたのか、篤胤から、長文の「林欣二伴臣生涯之心得」という訓戒を与えられている。

薩摩藩士密航1865＝15歳：9代当主懷徳の長男蘇太郎の誕生直後に、生来病弱だった懷徳が死去したため、父に命じられて、家督を継相続し、10代当主林(源十郎)伴臣となる。

明治維新・・・1868＝18歳：この年、父の尽力で、備中、美作、備後の旧天領を管轄する倉敷県が置かれ、

初の日刊新聞1870＝20歳：現岡山市東山公園の利光院に岡山藩医学館(後の岡山県医学校)が開設される。
廃藩置県・・・1871＝21歳：倉敷県は廃止されて、深津県に統合され、

明治6年政変 1873＝23歳：玉泉寺境内に、旧藩校明倫館に代わる倉敷明倫小学校が開校、
佐賀の乱・・・1874＝24歳：この年出版した、博学の医者石坂秋明著の「天文歌」を出版し、教科書として使われた。***林家の番頭による事業の失敗と、出版が洋書に転換して、和漢書が紙くず同然となったことから困窮、家財一切を売り立て、家屋敷は抵当に入ってしまう。以後、質素な生活をしなが、弟醇平とともに再興に奔走、**

初の民間工場1875＝24歳：倉敷小学校になる。
三つの反乱・1876＝26歳：北条県、岡山県に合併。岡山県庁に警察局設置。
西南戦争・・・1877＝27歳：倉敷帯江新田の一農夫の病体解剖から、倉敷の医師石坂堅壮が肝臓ジストマをわが国ではじめて発見。
大久保暗殺・1878＝28歳：窪屋郡の郡制となり、父が初代郡長に就任。宣教医ペリー(アメリカ人)が初めて倉敷を訪れ、県令高崎五六が宣教師を厚遇したことで、キリスト教が広がる。***弟醇平を発行元に、石坂堅壮らと、旬刊の{好事雑報}を発刊し、皆で盛んに投書。**

琉球処分・・・1879＝29歳：岡山に新島襄が訪れ、その講演を聞いた蘇太郎が同志社で学ぶ決心をして、入学。弟醇平が、岡山県初の県議会議員選挙で当選、岡山県での自由民権運動の先駆者の一人として、国会開設請願運動を展開する。
・・・・・・・・1880＝30歳：新島襄が、元岡山藩士で県庁の大属を辞し、あらゆることに世話役を買って出て、奇人として知られた中川横太郎と岡山県立病院の医師兼宣教師のペリーとともに、倉敷を訪れ、蘇太郎ら同志と会う。

明治14年政変1881＝31歳：
岩倉具視没・1883＝33歳：父が高齢により辞任。
秩父事件・・・1884＝34歳：父が政府から国事尽捧の功により金員を賜る。
内閣発足・・・1885＝35歳：水戸藩の儒学者でのちに山川均の妻となる菊栄の祖父青山延寿が、全国行脚の途次、父を来訪。
帝国大学始・1886＝36歳：小学校令が公布され、倉敷小学校も、尋常科と高等科に分かれた。
国民之友始・1887＝37歳：岡山県医学校中途退学した石井十次が、岡山の禪寺を借りて{日本孤児致育会(のち岡山孤児院)}を開設。中川横太郎らと**発起人になって、私立岡山薬学校を創設。**

初の対等条約1888＝38歳：蘇太郎改め林甫三が岡山基督教会で受洗。弟の醇平が参画して、有限責任倉敷紡績所が創立される。
帝国憲法発布1889＝39歳：甫三が山川均の姉浦と結婚、
帝国議会始・1890＝40歳：甫三の長男彪太郎(のち第12代当主林源十郎)が誕生。
大本教・・・1892＝42歳：***父が死去したのに合わせて、蘇太郎(甫三)に家督を譲り、**
日清戦争始・1894＝44歳：
Bushidou・・・1899＝49歳：_没した。